

# 伝産男子。伝産女子。Vol.10

# ～越前和紙～



## 山伝製紙株式会社

山口 真史さん 36歳

大学卒業後、洋紙を扱う会社に入社。その後、26歳の時に家業である山伝製紙へ。山伝製紙では和紙製造に従事し、自社での仕事以外の時間で、組合青年部や地域での活動、また、自社が抱える課題を解決するための活動を行っている。

### ～越前和紙とは～

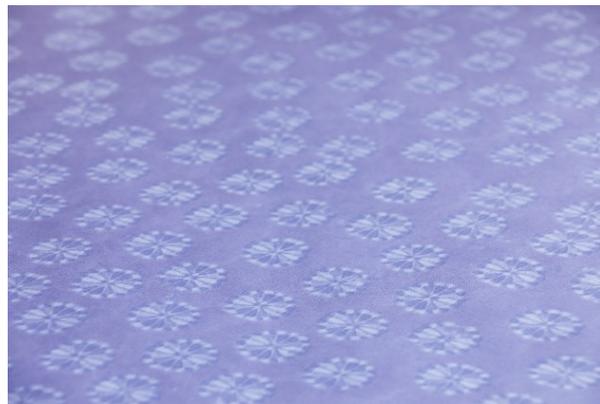
今から1500年程前が起源とされ、奈良時代には仏教の経を写すための写経用紙として重用されました。近代では、多くの芸術家たちに強く支持され、全国にその名が知られています。

伝産協会内紹介ページ：<https://kougeihin.jp/craft/0904/>

### 御社での取組について教えてください。

山伝製紙では、機械抄きで越前和紙の製造を行っています。伝統的な越前機械抄き和紙に加え、機能紙も製造しています。当社で製造した和紙は、おみくじや和菓子の包装紙、日本酒のラベルなど、様々な製品に使用されています。今は国の補助金を活用しながら、BtoC向けの製品に挑戦しているところです。

また、越前和紙の伝統技法である「ひっかけ」は、当社和紙製造の特徴の一つです。



山伝製紙で製造する越前和紙



「ひっかけ」に使用する金型

### 「ひっかけ」とはどのような方法でしょうか。

「ひっかけ」とは、模様をかたどった薄い金属製の金型に、原料の繊維をつけ（ひっかけ）、その模様を地紙に重ねて、模様をつける方法です。製造に手間暇かかるため、産地内で機械抄きの「ひっかけ」を行っているのは当社のみです。今では金型そのものをつくる職人がいないため、今ある金型を修復しながら使用しています。

伝統技法を残すため、金型に代わるものとして、3Dプリンターを活用できないか等、日々検討しています。

## 「サステナブル」な取組をされているそうですが、 きっかけを教えてください。

弊社の製造工程で、模様崩れや傷などがあり製品にならない「損紙」が出てきてしまいます。一部は、原料として社内で再利用できますが、再利用できない「損紙」を何とか活用できないかと考えたのがきっかけでした。



損紙を活用したショッパーを作る職人



損紙を活用したショップのインスタレーション

## 「損紙」の利活用はどう検討されましたか。

あくまで「損紙」は市場には出ないものです。既存の市場や越前和紙そのものの価値を落とさないように、紙そのものとしてではなく、付加価値をつけて利活用する必要がありました。そして、協力企業とともにショップのインスタレーションやギフト用のショッパーとしての利活用を開始しました。また製造は手作業で行うことによって、適量適産、無駄なエネルギー・資源の削減なども心掛けています。

## 社外での活動についても教えてください。

組合の青年部に所属し、ワークショップなど、次世代に越前和紙を伝えていく取組を実施しています。青年部は5名で活動しており、後継者確保は大きな課題だと感じています。また、今年は越前市と「越前和紙」、「越前打刃物」、「越前筆筒」の三つの産地が協力し開催している「千年未来工藝祭」の実行委員長を務めました。新たな挑戦として、市外・県外からの出展者を多く募り、市民の方々が様々な工芸に触れられるイベントを企画し、好評をいただきました。これからも、伝統を大切にしながら、新たな素材や機能、デザインなどを取り入れる挑戦をしていきたいです。



千年未来工藝祭の様子

## 山伝製紙株式会社

【住所】福井県越前市南小山町13-23

【TEL】0778-27-1556 【FAX】0778-27-2757

【代表取締役】山口 和弘

【創業】明治初年度 【従業員数】20人 【HP】<https://www.yamaden-seishi.com/>

【会社概要】

創業は明治初年度。手漉きで培った様々な技法を機械に組み入れ、越前機械抄き和紙の製造を行う。歴史的な繋がりだけでなく、社内での技術伝承や、協力会社とのネットワークなどを大切に、「和紙で、伝統・社会・未来をつくる」を目標に掲げ、事業を行っている。

